

**【第248号 紙面案内】**

第2面 ……………産学交流シンポジウム

第3面 ……………自由論題募集

第6面 ……………機関誌投稿論文募集

機関誌ジャーナル化

機関誌委員長 森川 信男（青山学院大学）

機関誌の継続的な刊行は社会に対する学会の使命であるが、現在、小椋康宏会長の熱き想いに端を発する、会員の皆様方からの暖かいご支持により、機関誌のジャーナル化が鋭意進行中であり、新年には新たな装いをもって発刊される運びとなってきた。

本学会における研究成果の刊行メディアの「創世」は、1979年の学会生誕後間もない1982年10月の『経営教育年報』第1号から1996年6月の第15号まで、さらに「二世」は、1998年3月の『経営教育研究』第1巻から2007年3月の第10巻まで発刊されてきている。

『経営教育年報』は、学会創設者であられる故山城章先生の強いイニシアチブの下に、特に故工藤達男先生の卓越的なご尽力により、また『経営教育研究』は、元会長森本三男先生の下に創刊され、歴代会長他多数の皆様からのご指導・ご協力により継承されてきた。

今般、市販本の体裁をとってきた『経営教育研究』のジャーナル化という形で、いわば「三世」としての新たな出発を始めるのは、以下の趣旨によるものである。

第一は、学会内部への研究成果の周知徹底である。機関誌は言うまでもなく、何よりもまず会員の研究成果の発表の場であるが、ジャーナル化によってそうした機会が大幅に拡大して、学会活動をいっそう活性化することが期待できよう。

第二は、学会諸活動のいっそうの統合化である。本学会は、全国研究大会、部会、産学交流シンポジウム、機関誌、会報などの多岐に渡る活動を展開してきているが、ジャーナル化によってそうした活動の迅速かつ有機的な連結を図る必要がある。

第三は、学会外部への情報発信の強化である。あらゆる組織は、社会への組織成果の発現によって初めてその基盤を確固とされるが、ジャーナル化によってその研究成果を広く世に問うことによって学会の存在意義がいっそう堅固なものとなろう。

このたびのジャーナル化に際して改めて学会機関誌『経営教育研究』のさらなる発展に対する、会員各位からの変わらぬご支援を切にお願い申し上げる次第である。

第11回産学交流シンポジウムのご案内

産学交流シンポジウム委員長 福田 昌義（日本大学）

はじめに

バブル経済崩壊後の失われた10年が過ぎてみると、日本企業はドラスチックな変貌を遂げていた。株主・企業価値の重視、キャッシュフロー経営、成果主義、社外取締役の導入、急速なM&Aの進展など、米国企業が90年代にトップの強力なリーダーシップのもとに実践した経営手法がそのまま今日の日本企業には横並び的に定着したかに見える。ではこうした経営手法は日本企業に適したものなのだろうか？ それとも新たな日本の経営のあり方が模索されるべきなのか？何れにしろ、プロフェッショナルな経営人材の育成が焦眉の課題といえよう。

今回のシンポジウムはこうした問題意識をもとに、お二人のゲストスピーカーに縦横無尽に語っていただければと願っております。多くの皆様のご参加を心からお待ち申し上げます。

- テーマ：新日本型経営の模索 ― 経営人材の育成と活用 ―
- 日時：平成20年3月1日(土) 13:00～18:30
- 場所：東洋大学白山キャンパス スカイホール（2号館16階）(予定)
- 参加費：会員・一般3,000円 院生会員 1,000円（懇親会費を含む）
- プログラム：(1) 講演
(本テーマに適したゲスト・スピーカー2名を予定しています)
- (2) 講演に関する質疑応答
- (3) 全体討議
- (4) 名刺交換会および懇親会

第55回関東部会報告

成田 康修（総合研究大学院大学文化科学研究科）

関東部会大会が、平成19年9月22日（13:30～17:00）に文京学院大学本郷キャンパスにて、多くの参加者のもと盛大に開催された。

第1報告は、筆者による「映像民族誌の方法」であった。コメンテータは山中伸彦氏（尚美学園大学）、司会は小川達也氏（東京富士大学）だった。

第2報告は日経メディアマーケティングの古山徹氏による「ROEの分析・評価についての一考察」であった。コメンテータは亀山雅人氏（立教大学）、司会は谷内篤博氏（文京学院大学）だった。

第3報告は、神奈川大学の小島大徳氏による「コーポレート・ガバナンス原則論の確立に向けて」であった。コメンテータは佐久間信夫氏（創価大学）、司会は鈴木岩行氏（和光大学）だった。

いずれの報告にも積極的な質問がなされ、活発で生産的な議論が展開された。報告会終了後、文京学院大学の谷内篤博氏のあたたかいはからいもあり、キャンパス内で懇親会が盛大に開催された。懇親会でもさまざまな交流が行われ、時を忘れ飲み語らいが繰り広げられた。

第57回全国研究大会自由論題募集

平成20年6月27日(金)～6月29日(日)に千葉商科大学にて開催される第57回全国研究大会での自由論題報告を募集します。下記要領に従ってお申し込みください。

《 応募要領 》

1. 応募資格：本学会の会員
ただし、1年以内に報告された方の応募はご遠慮ください。
2. テーマ：本学会の目的に沿う以下のもの
 - ・経営体の諸活動に関する実践的経営の研究
 - ・日本的経営および国際的経営の研究
 - ・経営者・管理者の実践的能力を育成するための経営教育の研究
3. 応募書類：応募には表紙、報告要旨、参考文献の3点が必要です。
 - ・表紙（A4サイズ1枚）……以下を明示してください。体裁は任意です。
 - ①氏名（漢字・仮名およびアルファベット）
 - ②報告テーマ
 - ③所属（現職および職位）
 - ④連絡先（自宅および所属先の電話番号・FAX番号、E-mailアドレス）
 - ・報告要旨（A4サイズ、用紙縦置き横書きで2枚以内）
要旨には問題意識、論点、結論等を必ず含めてください。
 - ①字数は2,000字（40字 30行）、10.5ポイント、余白は上下左右各25mm
 - ②報告テーマはゴシック体、要旨は明朝体
 - ・参考文献（A4サイズ1枚）……書式は報告要旨に準じます。
参考文献は内容と密接に関係するものにとどめ、関係の薄いものは控えてください。
上記書類を締切期日までに郵送または電子メールでお送りください。
4. 締切：平成20年1月25日(金) 必着
5. 応募先・問い合わせ先：日本経営教育学会事務局（担当：寿 康三）
〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 4-8-4 ㈱山城経営研究所内
TEL：03-3264-2100 FAX：03-3234-9988
E-Mail：name@kae-yamashiro.co.jp

◇◇九州部会開催のご案内◇◇

九州部会では2008年1月に部会を開催します。詳細は別途お知らせいたします。

●問合せ先：九州部会副部長・篠原淳 (shinohara@bird.ocn.ne.jp)

国際委員会より

国際委員会委員長 吉田 優治(千葉商科大学)

1. アメリカ経営学会への派遣報告者募集

アメリカ経営学会(The Academy of Management) 経営教育部会との「報告者交換プログラム」に基づき、派遣報告者を以下のように募集します。応募者多数の場合には委員会で選考させていただきます。報告テーマは「経営教育」に限定されていますので応募にあたりご留意ください。なお韓国経営教育学会(2007年5月)への派遣報告者については詳細が決まり次第募集します。

派遣先: 2008年度アメリカ経営学会年次大会(2008年8月8~13日、アナハイム)

応募資格: 本学会会員(大学院生を除く)

応募方法: 氏名、所属、報告テーマ、報告要旨(日本語3000字以上、英訳添付)を郵送もしくはメールにて学会事務局まで送付ください。

締切日: 2008年1月10日(消印有効、メールの場合は16時まで有効)

その他: 派遣報告者には旅費補助として5万円を支給します。

2. 報告者交換プログラムについて

韓国経営教育学会の2007年春季国際学術発表会(5月12日、湖原大学校)において小川達也氏(東京富士大学)が「日本の企業不祥事と経営教育の課題」を、アメリカ経営学会2007年度年次大会(8月6日、フィラデルフィア)において宮下清氏(首都大学東京)が「経営教育を変革するホワイトカラーの公的資格」を報告されました。両氏は、11月の第56回全国研究大会(高松大学)において帰国報告の予定です。またこの大会にはアメリカ経営学会よりTom Bryant氏(Rowan University)、韓国経営教育学会から李林庭(延世大学)が派遣され報告することが予定されています。

◇◇関西部会開催のご案内◇◇

- 日 時: 平成19年12月1日(土) 13:30~16:45
- 場 所: 大阪府立女性総合センター(ドーンセンター) 4階 中会議室1
〒540-0008 大阪市中央区大手前 1-3-49 (TEL 06-6910-8500)
京阪天満橋駅・地下鉄谷町線天満橋駅1番出口から東350m
- 第1報告: 加本正則氏(アイコム株式会社)「執行役員制度の普及について(経営者育成への有用性も含め)」、第2報告: 東俊之氏(金沢工業大学)「非営利組織における変革行動に関する一考察」、第3報告: 八角憲男氏(倉敷芸術科学大学)「ブランド価値評価モデルに関する検討ーバリュー・ドライバー分析を中心としてー」
- 忘年会は、当日17:30から東天紅OMMビル店(TEL 06-6944-1015)にて行います。
- 部会の詳細は11月初旬に部会幹事からご案内済のハガキをご覧ください。ご参加される方は返信用のハガキを11月26日(月)必着でポストへ投函してください。
- 部会に関するお問い合わせは、関西部会幹事の大東正虎(関西大学)
E-mail: daito@rcss.kansai-u.ac.jp 携帯電話: 090-9627-6495 までお願いいたします。

◇◇関東部会開催のご案内◇◇

- 日 時：12月15日(土) 13:00～17:00
- 場 所：東洋大学白山キャンパス
- 第1報告：宣京哲氏（神奈川大学大学院博士前期課程）
テーマ：「中国におけるコーポレート・ガバナンス原則と企業経営」
コメンテーター：金山権氏（桜美林大学）
司会者：中村公一氏（駒澤大学）
- 第2報告：久保田潤一郎氏（富士ゼロックス/立教大学大学院博士後期課程）
テーマ：「内部統制における倫理・コンプライアンス教育の役割」
コメンテーター：舩富順久氏（和光大学）
司会者：谷内篤博氏（文京学院大学）
- 第3報告：清水健太氏（東洋大学大学院博士後期課程）
テーマ：「コーポレート・ベンチャー形態の国際比較に関する研究」
コメンテーター：海老澤栄一氏（神奈川大学）
司会者：樋口弘夫氏（和光大学）
- 第4報告：犬塚正智氏（創価大学）
テーマ：「半導体産業における水平分業化とアライアンス戦略」
コメンテーター：吉村孝司氏（明治大学）
司会者：小川達也氏（東京富士大学）
- 参加費等：参加費1,000円、懇親会費3,000円
- 問い合わせ先：関東部会長・谷内篤博（049-261-7938, yachi3jp@yahoo.co.jp）
関東部会でのご報告を希望される方は、関東部会長までご連絡ください。

「国際交流ボランティア登録」のお願い

国際委員会委員長 吉田 優治（千葉商科大学）

現在、アメリカ経営学会経営教育部会と韓国経営教育学会との間で報告者交流プログラムを実施していますが、来日される派遣報告者の通訳や企業訪問の調整・随行、空港への送迎などにお手伝いいただける会員がいらっしゃいましたら学会事務局までお知らせください。院生会員も可です。またこれまで首都圏での宿泊には千葉商科大学ゲストハウスを利用してきましたが、他に大学および企業のゲスト用宿泊施設があればご紹介ください。

機関誌投稿論文募集

機関誌委員長 森川 信男

機関誌への投稿論文を下記の要領で募集しています。会員の皆様の積極的なご投稿をお待ちしております。

1. 原稿の受付

次号の機関誌（5月発行予定）への原稿は、1月31日（木）必着でお願いします。

2. 執筆要領

学会のホームページ（<http://www.j-keieikyoiku.jp>）トップページのinformationに掲載されている次のページをご参照ください。

- ①「機関誌執筆要領」
- ②「機関誌投稿規程」
- ③「機関誌論文様式サンプル」

3. 原稿の送付先・問合せ先

日本経営教育学会事務局

本欄～会員の新刊著書を紹介します～

◎大西 宏著『今、松下幸之助ならどうする？』

実業之日本社、2007年1月、1,400円

◎吉田 博著『職場の課題発見法-変革型リーダーの条件』

ワイメック出版部、2006年10月、2,500円（会員2,000円）

※会員の皆様の新刊著書を広くご紹介して参りたいと思います。学会事務局まで情報をお寄せください。

機関誌投稿論文、日本経営教育学会山城賞および山城賞奨励賞、アメリカ経営学会経営教育部会への派遣報告者、韓国経営教育学会への派遣報告者のお申し込みやお問い合わせは、用件を明示の上、下記までお願いいたします。

日本経営教育学会事務局（担当：寿 康三）

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 4-8-4 ㈱山城経営研究所内

TEL:03(3264)2100 FAX:03(3234)9988 E-mail:name@kae-yamashiro.co.jp

編集後記

会報第248号をお届けします。来年3月、第11回産学交流シンポジウムが開催されます。今回も皆様の知的好奇心を揺さぶる企画となっております。また、第57回全国研究大会自由論題報告を募集いたしました。日頃の研究の成果をご発表ください。会員の皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

樋口弘夫・杉田あけみ

発行 日本経営教育学会

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 4-8-4
株式会社山城経営研究所（担当：寿）
TEL 03-3264-2100 FAX 03-3234-9988
E-mail:name@kae-yamashiro.co.jp
URL:<http://www.j-keieikyoiku.jp/>

印刷 ㈱フジヤマ印刷 〒03-3260-3801
E-mail:fujiyama@mx7.ttcn.ne.jp